

STAGE+を楽しむ(48)(HP 収載)
—アンドリス・ネルソンスのマーラー—

1. 始めに

前報(47)に引き続き、STAGE+のアンドリス・ネルソンスのマーラーの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、本年と2021年のザルツブルク音楽祭でのアンドリス・ネルソンスのマーラーの演奏を選びました。

1) アンドリス・ネルソンスがマーラーとベルクを指揮

ウィーンフィルと共に

ライブ配信 2023年8月6日 18:00

再配信 2023年8月7日 9:00

再配信 2023年8月7日 20:00

世界で最も忙しい指揮者の一人であるアンドリス・ネルソンス。幅広いレパートリーを誇る彼はマーラー演奏のスペシャリストでもあります。ウィーンフィルハーモニー管弦楽団と共にこの作品に深く取り組んでおり、本映像ではザルツブルクでの第4番をお届けします。注目は「少年の魔法の角笛」の歌詞に基づく「天上の生活」をソプラノが歌う第4楽章。ドイツで注目されているソプラノ、クリスティア・ネ・カルグが歌唱します。オーガスティン・ハーデリッヒを迎えてベルクのヴァイオリン協奏曲《ある天使の思い出に》も美しい楽曲です。

ソリスト:

クリスティア・ネ・カルグ (ソプラノ)

オーガスティン・ハーデリッヒ (ヴァイオリン)

アンサンブル:

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

指揮:

アンドリス・ネルソンス

曲目:

アルバン・ベルク ヴァイオリン協奏曲《ある天使の思い出に》

オーガスティン・ハーデリッヒ(ヴァイオリン)

グスタフ・マーラー 交響曲第4番ト長調

クリスティア・ネ・カルグ(ソプラノ)



2) 2021年ザルツブルク音楽祭

収録日: 2021年8月7日

快進撃を続けるネルソンスがウィーンフィルを指揮してマーラーの“3番”を演奏した映像をお届けします。こちらは2021年ザルツブルク音楽祭から。ネルソンスが同音楽祭でウィーンフィルとマーラーの交響曲に取り組むのはこれが3回目。本来はこの前年に演奏する予定でしたがコロナ禍で見送られ、延期して実現しただけに全編が最後までエキサイティングな雰囲気にかかれています。

ソリスト:

ヴィオレタ・ウルマーナ (アルト)

アンサンブル:

バイエルン放送合唱団、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団、**Salzburger Festspiele und Theater Kinderchor**

指揮:

アンドリス・ネルソンス

曲目:

グスタフ・マーラー 交響曲第3番ニ短調



1) の本年のザルツブルク音楽祭は、ライブ配信と再配信に分けて試聴しましたが、安定した受信が可能でした。

ベルクのヴァイオリン協奏曲《ある天使の思い出に》は現代曲風で、ハーデリッヒのヴァイオリンの微妙なボウイングの音色が再現されていました。アンコール曲はバッハのヴァイオリンソナタ 2 番で、染みとおるような音色でした。



メインプログラムのマーラーの交響曲第 4 番は 2) の 3 番ともお馴染みの曲で、1 楽章で木管と弦が美しい旋律を流し、金管がアクセントを加えます。軽快な 2 楽章に続いて、静かに抒情的な旋律が長く持続し、ときおり荘重なパッセージが挿入されます。最後に、カルクの透明感溢れるソプラノが歌い上げて終局にいたります。この曲はマーラーの交響曲の中でも美しいパッセージが続きますが、ウィーンフィルの弦と木管が生きています。

2) の 2021 年のザルツブルク音楽祭は、アーカイブの配信で試聴しました。

マーラーの 3 番はベルリンフィルの演奏をデジタルコンサートホールでたびたび聴いていますが、ウィーンフィルの演奏は初めてです。

ウィーンフィルらしく弦はしなやかに、ホルンも柔らかく響き、中低域に厚みのある演奏です。ザルツブルグのホールの特徴か、グランカッサ、ティンパニ、小太鼓の音量が大きく、コントラバスも明瞭です。弦と管楽器の弱音のパッセージも美しくメゾソプラノと少年合唱陣の歌唱もよく通っています。



以上

